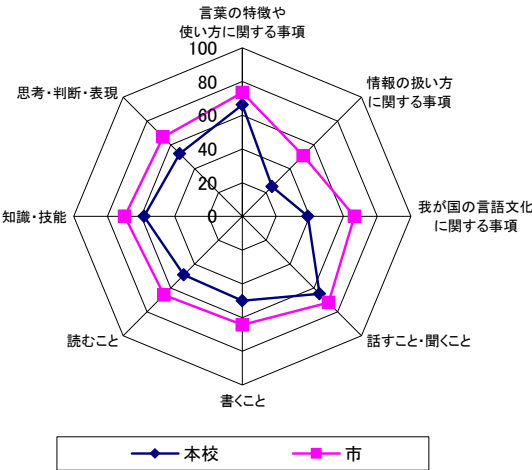


宇都宮市立田原西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.2	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	25.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	38.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	64.8	72.3	73.7
	書くこと	50.0	64.3	66.6
	読むこと	49.1	65.8	64.9
観点別	知識・技能	58.3	69.8	70.8
	思考・判断・表現	52.6	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

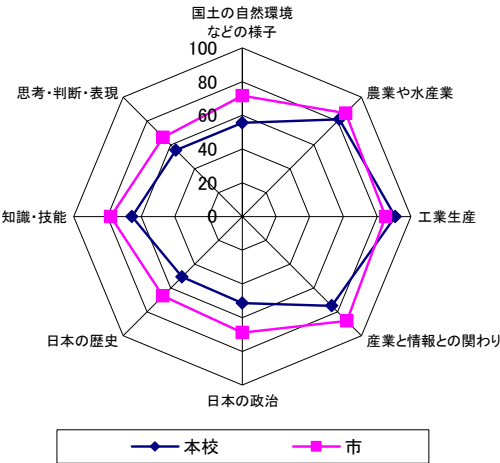
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	・平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字の読みについては、比較的よくできていた。 ●敬語についての設問の正答率が20%で、市の平均を2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・時と場、相手に合わせた話し方ができるよう日常生活の中で繰り返し指導をしていく。 ・漢字オリンピックを開催して意欲付けを図り、宿題や朝の学習で練習するなど学校全体で取り組んだ成果が表れてきていると考えられる。今後も、児童の意欲を喚起しながら、漢字練習を励行していく。
情報の扱い方 にに関する事項	・平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く設問の正答率が、他領域より著しく低い。情報量の多い問題文を読み取ることに課題が見られる。	・資料を読み取る力を付けるために、国語だけに限らず、社会や総合的な学習の時間などで、資料から分かることを文章でまとめる学習を繰り返す行う。
我が国の言語文化 にに関する事項	・平均正答率は、市の平均より低い。 ●和語、漢語、外来語についての設問の正答率が35%で、市の平均を大きく下回っている。	・今後も、漢字練習や自主学習などで、漢字を書くだけでなく、漢字の由来や成り立ちなどに触れるようにする。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、市の平均より低い。 ○話の内容を捉える設問の正答率は95%で、市の平均を上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問の正答率は35%で、市の平均を大きく下回っている。	・本校の取組である「ことばタイム」の活動をさらに充実させ、話し手の意図を捉えて聞き取る経験を積ませていく。 ・国語や総合的な学習の時間などで、聞いたことをもとに、自分の言葉で表現し、報告する活動を取り入れる。
書くこと	・平均正答率は、市の平均より低い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書くことは、比較的よくできていた。 ●指定された長さや段落で文章を書くことや予想される反論とそれに対する意見を書くことは、市の平均を大きく下回っている。	・朝の「ことばタイム」や授業の振り返りの中で、書く活動を多く取り入れ、キーワードを入れたり字数制限を設けたりして条件に合う文章を書けるよう、継続的に指導していく。
読むこと	・平均正答率は、市の平均より低い。 ●文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する設問では、市の平均を大きく下回っている。	・説明文では、文章の構成を考え、要旨を確実に捉えられるよう指導していく。 ・日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れたりと、より充実した読書体験をさせることで、読解力の育成を図る。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	55.6	71.6	69.6
	農業や水産業	81.5	86.7	83.7
	工業生産	90.7	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	75.0	87.7	77.4
	日本の政治	51.4	68.9	71.7
	日本の歴史	50.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	65.4	78.0	76.7
	思考・判断・表現	55.6	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

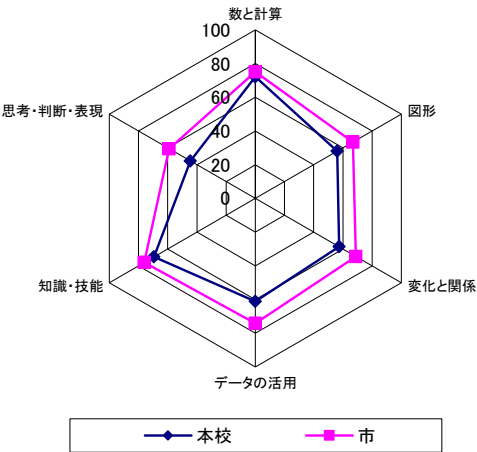
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ●世界の国の位置と国旗を理解しているか問う設問の正答率は55.0%で、市の平均を26.1ポイント下回っている。 ●日本で標高が高い山、長さが長い川、面積の大きい湖など、日本の主な地形の名称を理解しているか問う設問の正答率は45.0%で、市の平均を29.0ポイント近く下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、地図を活用して、国や大陸、海洋の位置について視覚的に学習する機会を設定する。 ・社会科の学習に限らず、国旗や国名がでてきた際には、地図などで位置を確認する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、適切な資料を判断する設問の正答率は80.0%で、市の平均を10.5ポイント下回っている。	・グラフや地図などの様々な資料を活用し、資料の読み取りに慣れさせる練習を繰り返し行う。 ・問題文をよく読み、資料から分かる必要な情報を確実に読み取る習慣を身に付けさせ、習得できるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自動車の製造工程について理解しているか問う設問の正答率は95.0%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○日本の工業の特色について、資料と結び付けて表現する設問の正答率は75.0%で、市の平均を1.6ポイント上回っている。	・グラフや地図、写真などの資料から必要な情報を読み取る方法について繰り返し指導する。 ・資料から読み取ったことについて考え、文章化する機会を設定する。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ●さまざまなメディアの特徴について理解しているか問う設問の正答率は85.0%で、市の平均を11.3ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について考える設問の正答率は65.0%で、市の平均を14.1ポイント下回っている。	・日常生活の中で、どのように情報化社会と関わっているのかに目を向けさせ、その影響や利便性について考えさせながら、適切な活用方法を身に付けられるように指導する。 ・教育活動の中で社会の出来事に触れることで、現在の社会事情などに関心をもたせるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本国憲法で定められている天皇の地位や権限についての理解や、内閣の働きについての理解を問う設問では、どちらも正答率が20%台で、市の平均を大きく下回っている。政治に関する理解が不十分である。	・資料集や教科書以外の映像資料も活用し、世の中の出来事に関心をもった上で正確に理解できるようにする。 ・内閣の働きについて、言葉だけでなく内容も正しく理解できるよう指導する。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○縄文時代の生活の様子について理解しているか問う設問の正答率は90.0%で、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ●壇ノ浦の戦いについて、源氏と平氏が戦った場所を地図の中から選ぶ設問の正答率は20.0%で、市の平均を35.7ポイント下回っている。	・歴史的事象について、言葉だけでなく内容も正しく理解できるよう指導する。 ・年表を活用し、歴史的な背景や前後の出来事を確認しながら、それぞれの時代の様子について理解できるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.2	75.1	75.8
	図形	56.1	66.8	68.3
	変化と関係	57.4	68.8	65.0
	データの活用	61.1	74.1	63.6
観点別	知識・技能	69.4	76.1	75.8
	思考・判断・表現	44.4	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

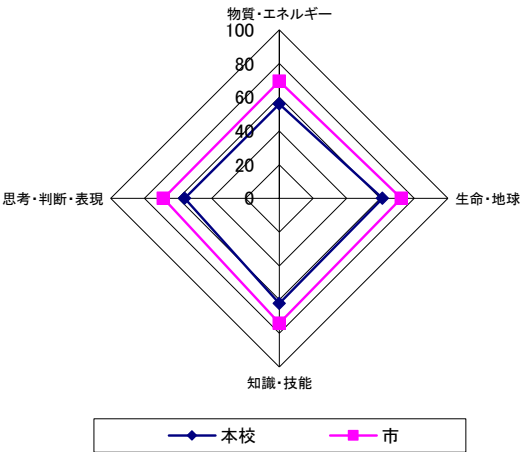
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分数÷分数(約分あり)の計算の設問の正答率は100.0%で、市の平均を19.3ポイント上回っている。 ●図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をする設問の正答率は61.1%で、市の平均を14.9ポイント下回っている。 ●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問の正答率は55.6%で、市の平均を14.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力の定着に向け、朝の学習や宿題等で繰り返し練習を継続し、正しく計算する力をより身に付けらるよう、指導をしていく。 ・問題文を理解し、図で表す活動を取り入れ、図を用いて考えたり説明したりする力を身に付けられるようにする。 ・3年生以降で未知数を求めるときの解き方を丁寧に扱っていく。また、等式の性質の理解を図り、中学校の学習に繋がれるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○合同な三角形を作図する設問の正答率は、88.9%で、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を理解する設問の正答率は11.1%で、市の平均を27.4ポイント下回っている。	・図形の学習をする際には、図の構成要素を丁寧に扱っていくことで、高さが図形の外にある場合でも底辺や高さ正しく読み取り、面積等を求めることができるようになる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基準量と比較量から、割合を求める設問の正答率は61.1%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ●表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する設問の正答率は55.6%で、市の平均を17.8ポイント下回っている。	・問題文をよく読んで数直線に整理し、内容を理解して正しく立式、計算することができるよう指導していく。「単位量当たりの数」「割合」「速さ」などの復習を繰り返し行うことで、問われていることについての読み取りに慣れるようにしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよ何歩かかるかを求める設問の正答率は27.8%で、市の平均を32.9ポイント下回っている。 ●問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める設問の正答率は27.8%で、市の平均を14.0ポイント下回っている。	・活用問題の正答率が低かったため、児童の身近なことや関係あることを課題にすることで、既習事項を利用して問題を解くことができるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.0	69.5	65.2
	生命・地球	61.3	72.3	70.1
観点別	知識・技能	62.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	56.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くする回路のつなぎ方を作図する設問の正答率は75.0%で、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ●実験における手順の誤りを説明する設問の正答率は25.0%で、市の平均を27.7ポイント下回っている。	・児童にとって身近な話題を取り入れたり、実感を伴った理解ができるように展開を工夫したりして、一人一人が興味をもって学習に取り組むことができるようにする。 ・実験を行う際に、手順やポイントを確認することに加え、全員が実際に操作して体験的に理解できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○和歌がよまれたときの月の形を選ぶ設問の正答率は60.0%で、市の平均を27.2ポイント上回っている。 ●浸食についての設問の正答率が20.0%で、市の平均を50.7ポイント下回っている。	・他教科の学習内容や日常生活と結び付くことに対する正答率が高くなっている。今後も児童に身近なものに関連付けることで理解を促していく。 ・用語を答える設問での正答率が低くなっている。単元の中で覚えるべき用語を掲示したり、意図的に繰り返し使用したりすることで、基本的な知識の定着を図る。

宇都宮市立田原西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・全教科において、感想や振り返りだけでなく、分かったことや自分の考えなどを記述する場を意図的に設け、思いを言語化できるようにする。	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取し、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。	・国語の「書くこと」において、自分の意見とその理由を明確にして書くことは、比較的よくできていたが、どの教科でも記述式問題の正答率が低く、市の平均を下回っている。
・児童が自ら考えたいかなるような導入の工夫をする。	・ICTを活用する、実物を使う、身の回りにある課題から入る等、児童の知的好奇心を刺激するような課題を工夫し、意欲を高める。 ・単元の導入で前学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図るようにする。	・「勉強が好きですか。」についての肯定割合が学年が上がるほど低くなっており、3、4、6年生で市の平均を下回っている。「授業がどの程度分かりますか。」については、4、5、6年生で市の平均を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・国語、算数、理科、社会のすべてにおいて、記述式の問題の正答率が市の平均を下回っており、自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。振り返りや考えを書く際、キーワードや文型を示して書くことへの抵抗感を軽減し、書くことに慣れるようにしていく。 ・ほとんどの教科・領域において、正答率が市の平均を下回っており、基本的な知識・技能の習得に課題が見られる。児童が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、ICTを活用する、実物を使う、身の回りにある課題から入る等、導入の工夫をするとともに、導入で既習事項の復習をする機会を設定し、定着を図るようにする。
--